

## 伸びる人は「自分で考え、己と戦う」

私は今年で高校の教員になって丁度30年目です。その間、学習合宿に10回教員として関わり、自分が高校生3年生の時にも生徒として雲仙のホテルに1週間缶詰になって学習したことを覚えています。そういう経験を踏まえながら、激励のこたばを送ります。

まず、同じ授業や同じ教材を使ってもなぜ差がつくのでしょうか。それは「自ら考えて主体的に取り組む人」と「常に他人にやらされている人」の違いだと思います。水泳選手の北島康介さんという人を知っていますか。アテネと北京オリンピックにおける100M、200M平泳ぎの金メダリストです。北島選手を育てられた平井伯昌さんというコーチがいらっしゃいます。平井コーチは、小学生の頃から才能に恵まれ、大事に育ててきたにもかかわらず、高校生になった途端に伸びなくなる選手がいるそうです。その理由を平井コーチは「自ら考える力の欠如」とおっしゃっています。つまり、一定のレベルに達した選手は自分に不足しているものを補い、自分の弱さを克服するためにどんな練習をすべきかを自分で考えなければ伸びないということです。この合宿では、ただ与えられた課題だけを消化するのではなく、自分に足らざるものは何なのかを考えて、主体的な学習をしてください。やらされているうちは伸びません。

二つ目は、受験は「己との戦い」であるということです。スポーツの世界でも、並みの選手にとってのライバルは相手であり、一流選手にとってのライバルは自分自身だと言います。結果を出す選手は自分自身と向き合っているということです。常に自己評価しながら課題を克服し、成長していくのです。他人と自分を常に比較する人は、他人に勝った負けたで一喜一憂し、分が悪くなるとやる気さえなくしてしまいます。受験も同じです。他人との比較ではなく、己との戦いです。自分自身と戦うからこそ、自分を客観視することができ、自分の足りないところや弱点が見えてくるのです。

最後に、全国の多くの受験生が本格的な受験勉強をこの夏から始めます。今からでは「遅すぎるんじゃないか」と思っている人、全くそういうことはありません。勝負は今からです。そして、今からが一番伸びます。ただし、学力は右肩上がりには伸びません。これまでの生徒たちを見ていると、一気に成績が伸びる「ある時点」があります。これだけやっているのに伸びないと悩んだり、焦ったりする必要はありません。みんなにも必ず一気に伸びる「ある時点」が来ます。6日間、しっかり頑張ってください。